

別添 1 旅客船転覆事故に係る川の横断形状の計測
についての委託調査

別添1 旅客船転覆事故に係る川の横断形状の計測についての委託調査

1. 目的

本件は、平成23年8月17日、天竜川で発生した旅客船転覆事故の調査に資するため、事故発生場所付近の測深を行い、横断形状を得ることを目的とする。

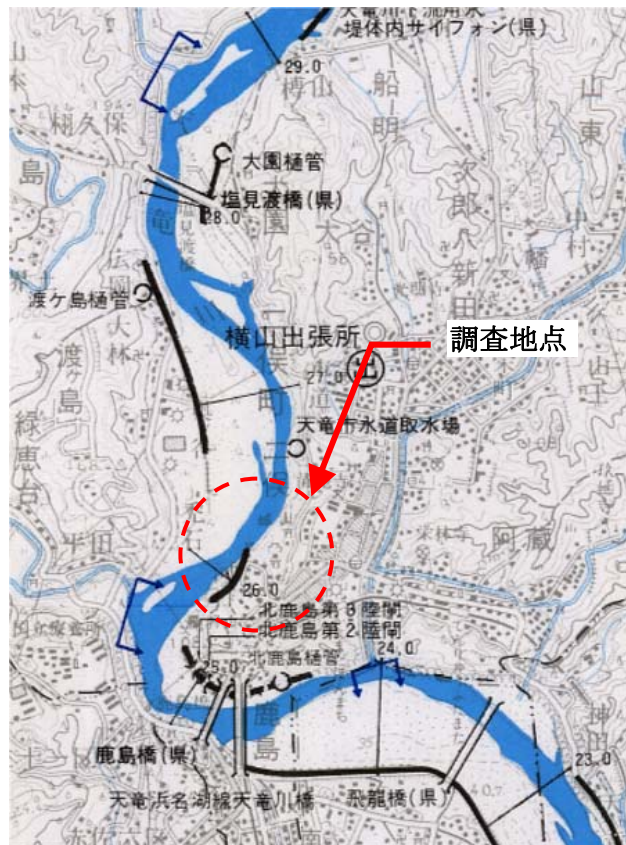


図 1-1 調査位置図

2. 調査実施方法

2.1 河床形状測定

発注者の指示する範囲（概ね 100m×50m）の河床形状測定を行う。

主流部の流速が速い事、ボイルの発生や循環流があることから、直線的な航走が困難であったため、計測範囲を縦横に航走しすることで計測範囲内の水深（河床高）を網羅するような計測方法とした。

手段は超音波測深とし、測深する範囲は超音波測深が可能な範囲とする。

作業方法・・・自立走行式ラジコンボート（下図表参照）

使用するラジコンボート



サイズ	1 0 6 cm× 2 7 cm× 2 5 cm
本体重量	9 . 3 k g
測深範囲	0 . 5 m～ 8 0 m
測深分解能	0 . 0 1 m
走行時間	1 2 0 分（静水・自立走行時）

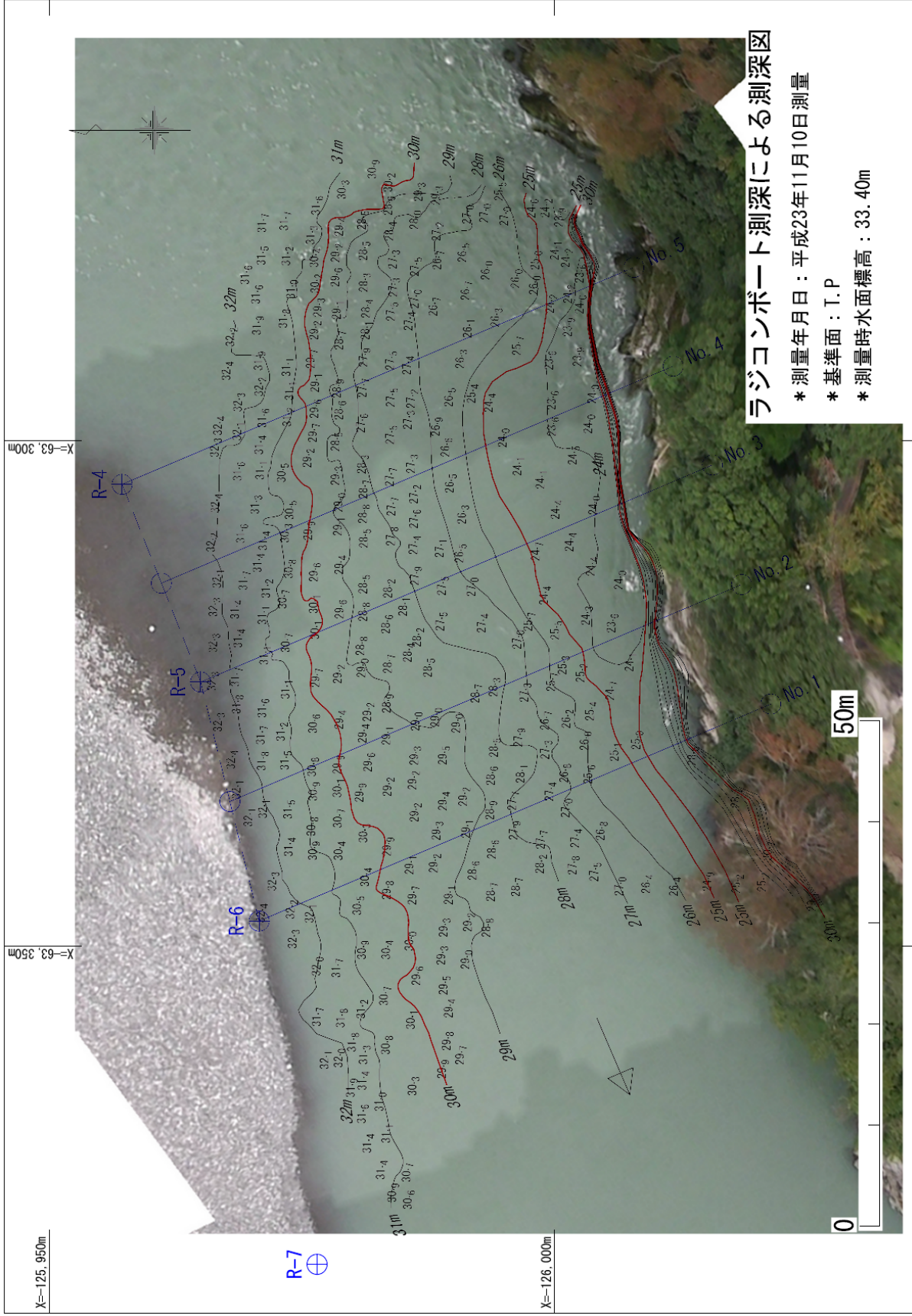
2.2 計測データの整理

計測データは、横断面図と電子データ（横距と河床高）に整理する。

3. 計測実施結果

計測結果に基づく、河床高コンター図、河床横断図、及び河床高の平面座標（X,Y）と河床高（z）の値を次頁以降に示す。

なお、計測範囲の左岸側は流れが速く水面が数十 cm 程度変動しているように目視されたことから、計測部中心部分に比べて計測精度は落ちると思われる。ただし、水深が 9m程度と推定されるため、数十 cm の水面変動では 2～3%程度の影響であり、計測流域全体の地形をとらえる上では十分な精度と言える。



ラジコンボート測深による測深図

* 測量年月日：平成23年11月10日測量

* 基準面：I.P

* 測量時水面標高：33.40m

